6th

# 低炭素杯2016報告書

$CO_2$

# 目　次

組織体制 …… 5

エントリー募集から低炭素杯2016開催までの流れ／
開催プログラム構成 …… 6

低炭素杯2016チャレンジ企画 …… 7

プログラム2月16日（火） …… 8

プログラム2月17日（水） …… 10

低炭素杯2016受賞者一覧 …… 12

低炭素杯2016当日の会場の様子 …… 14

ファイナリスト紹介 …… 15

低炭素杯2016広報掲載一覧 …… 39

ファイナリストの声 …… 40

来場者の声 …… 41

ゲスト審査員の声 …… 42

低炭素杯2017に向けて …… 43

# 低炭素杯とは？

次世代に向けた低炭素社会の構築をめざし、多様な主体が取り組む、地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度を通じ、全国の優れた取組のノウハウや情報を共有し、さらなる活動への連携や意欲を創出するしくみが「低炭素杯」です。6回目を迎える「低炭素杯2016」は、会場を都心の日経ホールに移すと共に、環境大臣賞に加え、新設された文部科学大臣賞と企業団体賞のラインナップもさらに充実致しました。

今年の低炭素杯2016には北海道から九州までの各地域より1993団体がエントリーし、厳正なる書類審査等を経て選抜されたファイナリスト38団体が、ステージ上のプレゼンテーションに臨みました。

また、各賞を競う場であると同時に、営利、非営利という組織文化の違いに拘わらず、気候変動という地球規模の課題に取組む仲間の情報を交換し、共に同じ目標に向かう仲間としての連帯を深める場ともなります。

低炭素杯2016の開催に際しまして、多くの企業・団体の皆様からご支援・ご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。

そして、今年も低炭素杯を盛大に開催できましたことを、関係者及び環境省、文部科学省の皆様、エントリーしてくださったすべての団体の皆様に感謝申し上げます。

# オープニングメッセージ

低炭素杯実行委員長

## 小宮山　宏

皆さん！
本日は「低炭素杯2016」のファイナルステージに、
ようこそお越し下さいました！　低炭素杯・実行委員長の小宮山宏です。

昨年の暮れ、COP21がパリで開催され、参加した196カ国すべての国の賛成を得てパリ協定が採択されました。

人類が地球温暖化を阻止しよう、温室効果ガス排出量をゼロにしていこう、世界の平均気温上昇を2℃未満に抑えよう、出来れば1.5℃に抑えようと合意致しました。これは人類史上、本当に活気的な事です。

私は、おそらく2015年12月12日は人類が地球環境を守ろうと合意した記念すべき日になるだろうと思います。地球環境の保護にむけて、日本では非常に多くのグループや人々が活動をしています。学校、企業、自治体、NPOなど様々な主体が環境活動に取組んでいますが、規模も内容も様々です。

本日、この低炭素杯2016では、大変多くの試みの中からもっとも優れている、選ばれたファイナリスト38団体が晴れの舞台に登場致します。

皆さん、私たちは宇宙船地球号の同志です。晴れの舞台で発表される38のファイナリストの取組みを是非この目に焼き付けてお帰り頂きたいと思います。
さあ、それでは皆さん、一緒に目撃者になりましょう！
「低炭素杯2016」、スタートです！

2016年2月16日（火）

環境副大臣

## 平口　洋

環境副大臣の平口洋でございます。「低炭素杯 2016」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011 年の初開催から数えて 6 回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国 1,993 もの団体からの参加をいただきました。昨日は、熾烈（しれつ）な選考を勝ち抜いてこられた 38 団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

昨日、プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

皆様御存知の通り、昨年末の COP21 では、2020 年以降の地球温暖化対策に関する、新たな国際枠組みである「パリ協定」が採択されました。今後は、我が国も、この「パリ協定」や、我が国の「約束草案」を踏まえ、着実に地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。

そのためには、国民お一人お一人に、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解していただいた上で、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「行動」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけていただき、ライフスタイルの変革を進めていく必要があります。

本日、この場に集（つど）われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、国民全体のライフスタイルの変革へと繋がる地球温暖化防止活動の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げております。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた実行委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2016 年 2 月 17 日（水）

文部科学大臣政務官

## 堂故　茂

低炭素杯 2016 表彰式の開催にあたりまして、文部科学省を代表して、一言御挨拶いたします。

はじめに本日、優秀者として、表彰を受けられる皆様におかれましては、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかったものの、ファイナリストとしてここまで進まれた方々も、それぞれの地域において、地球温暖化防止に関して、素晴らしい取組をされているものと承知しております。低炭素社会づくりに対する皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

地球温暖化をはじめ、地球環境の悪化が深刻化する中、エネルギーの効率的な利用など、環境に対する負荷を軽減し、持続可能な社会を構築するためには、国民一人一人が様々な機会を通じて環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが重要です。

文部科学省では、国民がその発達段階に応じて、環境保全への理解と関心を深めることができるよう、学習指導要領における環境教育に関する内容の充実や、青少年の自然体験活動の推進等、地域における環境学習等の充実などに取り組んでいるところです。

地球温暖化防止に関する優れた活動とノウハウを全国に展開するとともに、プレゼンテーションを通じ、交流、学び合い、連携の「輪」の拡大を図る低炭素杯は、大変素晴らしい取組であることから、是非、文部科学省としても支援させていただきたいと思い、今回から新たに御協力させていただくこととといたしました。皆様の取組により、国民の環境保全に関する理解が一層深まり、各地域における地球温暖化防止活動が更なる発展を遂げることを期待しております。

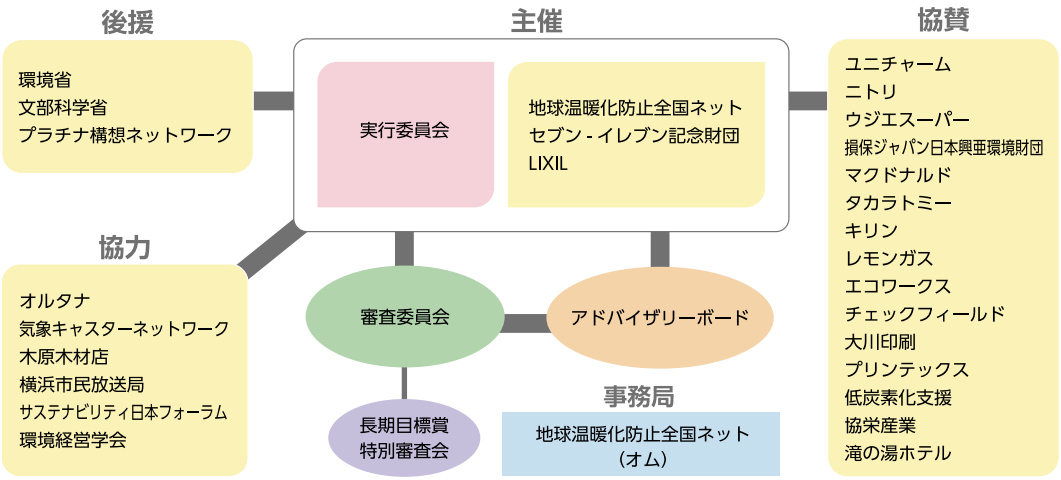
結びに、低炭素杯 2016 の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をてはじめ、低炭素杯実行委員会委員の皆様、御協賛・御協力いただきました企業・団体の皆様、全国地球温暖化防止活動推進センターの皆様に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

2016 年 2 月 17 日（水）

# 組織体制

低炭素杯2016開催にあたり、主催する実行委員会と、事業立案及びファイナリスト選定、表彰団体選定を担う企画・審査委員会を以下のように設置しました。

順不同、敬称略




## 実行委員会

〈委員長〉
小宮山　宏：三菱総合研究所 理事長

〈副委員長〉
金谷　年展：東京工業大学ソリューション研究機構
特任教授

〈副委員長〉
長谷川　公一：地球温暖化防止全国ネット 理事長

〈委員〉
伊藤　順朗：セブン＆アイHLDGS. 取締役執行役員
CSR統括部シニアオフィサー、
セブン-イレブン記念財団 評議員

佐竹　葉子：LIXIL執行役員 広報部 部長

伊藤　賢利：環境省 地球環境局地球温暖化対策課
国民生活対策室 室長

## 審査委員会

〈委員長〉
金谷　年展：東京工業大学ソリューション研究機構
特任教授

〈副委員長〉
岩谷　忠幸：気象キャスターネットワーク 事務局長

〈委員〉
大森　正之：明治大学 政治経済学部 教授

堅達　京子：日本放送協会編成局コンテンツ開発センター
チーフ・プロデューサー

薗田　綾子：クレアン 代表取締役

萩原　なつ子：立教大学大学院
21世紀社会デザイン研究科 教授

平田　裕之：環境パートナーシップ会議 事務局次長

## アドバイザリーボード

井田　徹治：共同通信社 編集委員・論説委員
伊藤　弓子：LIXIL広報部コーポレートリスポンシビリティ推進グループ 主幹
梅香家　聡：横浜市民放送局
クリエイティブディレクター
大川　哲郎：大川印刷 代表取締役社長
小野　弘人：セブン-イレブン記念財団
地域活動支援事業マネージャー
更井　徳子：損保ジャパン日本興亜環境財団
事務局長
高林　慎享：タカラトミー 連結総務人事室環境課
総務部環境課 課長
町井　則雄：日本財団総務部企画推進チームリーダー
森　摂：オルタナ 代表取締役・編集長
山村　宜之：キリン 環境推進部環境情報担当 主査
吉田　芳弘：ウジエスーパー 常務取締役

## 長期目標賞特別審査会

〈座長〉
後藤　敏彦：環境経営学会 会長

〈副座長〉
倉阪　秀史：千葉大学 大学院
人文社会科学研究科 教授

〈審査委員〉
川村　雅彦：環境経営学会 副会長

阪野　朋子：サステナビリティ日本フォーラム 事務局次長

薗田　綾子：サステナビリティ日本フォーラム 事務局長

中村　晴永：環境経営学会 理事・事務局長

藤野　純一：国立環境研究所 主任研究員

# エントリー募集から低炭素杯2016開催までの流れ

温暖化対策を意識し取り組んでいる団体
低炭素杯出場を目指す団体

どちらでも応募可（両方応募も可）

**ダイレクトエントリー 95 件**

※事務局の募集窓口へ直接応募する

2015年7月30（木）～9月14日（月）

**地域大会エントリー 1,898 件**

※全国で開催されている温暖化防止や環境に関わる表彰大会で低炭素杯地域大会として認定された大会に参加した団体の中から、各地域温暖化防止活動推進センターが然るべき審査基準によって選定

「低炭素杯」の主旨に準拠し、一定のルールをクリアした大会を「地域大会」として認定

推薦
5 団体

**第一次選考期間（書類審査）**

※ 7 名の審査委員が全ての審査書類を読んで採点し、審査委員会を開催した上で、ファイナリストを選考。

2015年11月～12月上旬

**ファイナリスト 38 団体決定！**

※ファイナリスト賞の贈呈

地域 10 団体、学生 8 団体
地域エネルギー 5 団体、企業 15 団体

2015年12月

**低炭素杯 2016 開催**

2016年2月16日（火）　2016年2月17日（水）

最終選考
プレゼンで活動を発表！ → 各賞の受賞者発表

# 開催プログラム構成

「低炭素杯 2016」2 日間の開催プログラム構成。詳細は 8P より参照。

| | Day 1<br>2 月 16 日(火) | Day 2<br>2 月 17 日(水) |
|---|---|---|
| 午前 | | 審査委員会 |
| 午後 | 開会 | ＜同時開催＞<br>特別シンポジウム<br>ベスト長期目標賞　発表 |
| | ファイナリスト団体による<br>プレゼンテーション発表 | |
| | 交流会 | 表彰式 / 閉会 |

# 低炭素杯2016チャレンジ企画

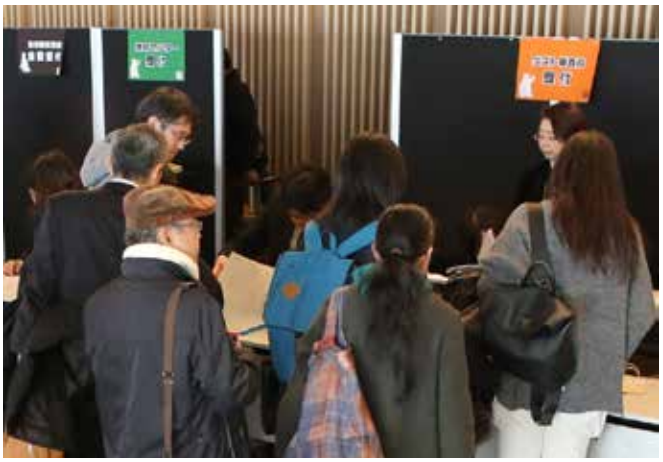
## 1.「寄付」企画

低炭素杯への寄付ができるクラウドファンディングサイトから様々な方からご寄付を頂きました。

合計281,000円のご寄付を頂きました！温かいご支援頂きましてありがとうございました。

## 2. 100名のゲスト審査員を募集

全団体のプレゼンを見て、最も感銘を受けた団体へ投票する「ゲスト審査員」100名を募集、ゲスト審査員は投票権2票を持ち、その投票等によりオーディエンス賞2団体が決定致しました。
YouTubeに配信したプレゼン動画の視聴回数が多かった団体に審査ポイントを加算する試みも実施しました。



今年度は沢山の方からの低炭素杯の観覧のお申込みを頂き、定員に達した為、締め切り前でしたがHPからの申し込みを終了させて頂きました。ご応募頂きましてありがとうございました。

# DAY1 プログラム　2月16日（火）

## 開会（13：00 ～ 13：20）

　今年で６回目を迎える低炭素杯。
張りつめた雰囲気の中、ピンスポットと共に小宮山実行委員長がステージ上に登場。
「一緒に目撃者になりましょう！低炭素杯2016スタートです！」という、力強い挨拶とともに万雷の拍手が湧き上がり、会場の緊張と期待は最高潮にのぼりました。
　全ファイナリストの紹介VTRが流れ、続いて審査委員・スポンサー選考委員の紹介とともに低炭素杯2016が開幕しました。

ピンスポットの下で、オープニングアクトを務める小宮山実行委員長

## ファイナリスト38団体によるプレゼンテーション（13：20 ～ 16：50）

　４分間という限られた時間の中で自分たちの活動を来場されたお客様に伝える為、直前まで練習をし、本番を迎えたファイナリストの皆さん。
　当日は、皆さん緊張した面持ちで会場にお越しになりました。
　学校や企業など所属先に拘わらず、学生から大人まで自分たちが今まで取り組んできた環境活動の内容を必死に伝える姿はとても印象的に残り、会場を感動の世界へと誘いました。

### 企業部門

| | |
|---|---|
| 1. 東京都 | KDDI |
| 2. 埼玉県 | ジーベックシステム |
| 3. 滋賀県 | 田中建材 |
| 4. 茨城県 | 岩井化成 |
| 5. 神奈川県 | 音力発電 |
| 6. 宮城県 | スモリ工業 |
| 7. 静岡県 | 山梨罐詰、静岡県工業技術研究所 |
| 8. 大分県 | 三和酒類 |
| 9. 神奈川県 | 横浜市資源リサイクル事業協同組合 |
| 10. 群馬県 | サンデンファシリティ　ECOS グループ |
| 11. 東京都 | セコム |
| 12. 埼玉県 | ファインモータースクール |
| 13. 東京都 | タキロン |
| 14. 東京都 | 三菱地所、日本電気 |
| 15. 神奈川県 | 昭和電工　川崎事業所 |

### 学生部門

| | |
|---|---|
| 16. 広島県 | 広島県立油木高等学校　ミツバチプロジェクト |
| 17. 長崎県 | 長崎県立諫早農業高等学校　生物工学部　新エネルギー研究班 |
| 18. 大阪府 | 大阪府立長吉高等学校　サッカー部 |
| 19. 東京都 | 江東区立八名川小学校５学年 |
| 20. 愛知県 | 愛知県立佐屋高等学校 |
| 21. 鹿児島県 | 鹿児島県立薩南工業高等学校　建築工作同好会 |
| 22. 大分県 | 大分県立玖珠美山高等学校　チーム野菜 |
| 23. 静岡県 | 静岡県立富岳館高等学校　農業クラブ |

### 地域エネルギー部門

| | |
|---|---|
| 24. 静岡県 | 静岡県工業技術研究所、静岡油化工業 |
| 25. 岩手県 | 葛巻町 |
| 26. 北海道 | 柳月 |
| 27. 東京都 | TOKYO油田2017（ユーズ） |
| 28. 静岡県 | しずおか未来エネルギー |

### 地域部門

| | |
|---|---|
| 29. 岡山県 | 岡山西温暖化対策地域協議会 |
| 30. 香川県 | 内濱太鼓台世話人会 |
| 31. 静岡県 | 省エネ推進ネットワークぬまづ |
| 32. 東京都 | 江東エコライフ協議会 |
| 33. 千葉県 | 千葉大学環境ISO学生委員会 |
| 34. 福岡県 | 福岡アイランドシティ　CO2ゼロプロジェクトチーム |
| 35. 岡山県 | 子ども環境プロジェクト（学童プレハブー６℃作戦） |
| 36. 佐賀県 | はちがめ生ごみステーション市民の会　栄町グループ |
| 37. 鳥取県 | 米子工業高等専門学校　B&C研究同好会 |
| 38. 山形県 | 庄内町地球温暖化対策地域協議会 |

司会の櫻田彩子さん
素敵な笑顔で会場を和ませます

セコム

静岡県工業技術研究所、静岡油化工業

はちがめ生ごみステーション市民の会

大阪府立長吉高等学校

しずおか未来エネルギー

TOKYO油田2017(ユーズ)

ジーベックシステム

## 交流会（17：30 ～ 19：00）

一日目の夜は交流会を開催しました。出席者はファイナリスト、地域の地球温暖化防止活動推進センタースタッフ、低炭素杯の委員やスポンサー等の関係者、総勢130名程。

所属している団体の活動内容や規模などに拘わらず熱心に情報交換や交流を深め合いました。

# DAY2 プログラム　2月17日（水）

《同時開催》

## 特別シンポジウム（13:00 ～ 14:15）

### 「地域にとって最適で、最も効果的な取組を増やすために ～地域のことは、地域で学ぶ、決める、動かす」

同時開催の特別シンポジウムでは、日本の持続可能性を高めるために、地域の進化が不可欠であること、そのためには地球温暖化防止をはじめとする地域での活動も、各地域の自然・気候や人口構成の推移、それにもとづくエネルギー消費の特徴など、地域の特性を正確に把握し、それに応じてテーマの選定や取組の進め方を見直す必要があることについてお話しをして頂きました。

講師　川北　秀人
ＩＩＨＯＥ［人と組織と地球のための国際研究所］代表

## ベスト長期目標賞表彰式（14:20 ～ 14:45）

低炭素杯 2016 では低炭素杯実行委員会において長期目標賞特別審査会を設置し、長いスパンの CO2 排出削減目標を掲げ、積極的に取り組む企業及び自治体を表彰する今年度限りの特別な賞として「ベスト長期目標賞」を設け、厳正な審査を行い、自治体 158 件から７件、企業 256 社から 10 社を受賞団体に決定いたしました。

| 受賞 自治体・企業一覧 | |
|---|---|
| 自治体部門 | 大賞：長野県<br>横浜市、富山市、名古屋市、豊田市、北九州市、御嵩町 |
| 企業部門<br>（五十音順） | 大賞：トヨタ自動車<br>大林組、カシオ計算機、キリンホールディングス、コニカミノルタ、サントリーホールディングス、ソニー、大成建設、日産自動車、本田技研工業 |

## ～低炭素杯表彰式～

午前中に非公開で行われた「審査委員会」において、今年の受賞者を決定しました。表彰式では、環境大臣賞グランプリ（1団体）、金賞（各部門から1団体、計4団体）、の受賞者が発表され、平口洋環境副大臣より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。
また、今年から新設された文部科学大臣賞（社会活動分野・学生活動分野）では、堂故茂文部科学大臣政務官より各団体の代表の方々に賞状とトロフィー等が授与されました。
企業・団体賞については、各賞提供のプレゼンターから受賞者（10団体）へ、オーディエンス賞は小宮山宏実行委員長から受賞者（2団体）へ授与されました。さらに当日、規定枠外として審査委員特別賞が発表され、金谷年展審査委員長から受賞者（1団体）へ後日、表彰状が贈られました。

### 環境大臣賞トロフィー

第一回低炭素杯から風倒木や朽木を利用した環境大臣賞トロフィーを制作いただいているのは、群馬県在住の木工造形家齊藤公太郎さんです。

今年は、齊藤さん在住の群馬県の欅の倒木と杉の間伐材が素材として用いられ、例年に増して個性的かつ芸術性の高い作品に仕上げて下さいました。

今回のトロフィーも、温暖化に向き合い、環境問題に取組む皆さんを応援する、「杯（はい）」であり受賞した皆さんが手にとった時、手助けとなる説得力を持った「トロフィー」として、齊藤さんの想いが込められた作品です。

### 文部科学大臣賞トロフィー

文部科学大臣賞トロフィーの制作を手掛けてくださったのは、青森県五所川原市の里山に津軽金山焼の窯を開いた松宮亮二さんです。須恵器の強い影響を受けた津軽金山焼は、釉薬を一切使わずに、1350度の高温でじっくりと焼きあげて固める「焼き締め」の手法で、土本来の深みのある独特の風合いが特徴です。自然界の土だけをこね成形し、バイオマスエネルギー源である灌木材を焚き、土の釜で幾夜もかけてじっくり焼く金山焼陶器。夜通し薪をくべ、巨大な登り窯で焼きあげた土のトロフィーです。

# 低炭素杯2016受賞者一覧

受賞者の皆様おめでとうございます！

## 環境大臣賞グランプリ

しずおか未来エネルギー

## 環境大臣賞金賞 企業部門

タキロン

## 環境大臣賞金賞 地域エネルギー部門

柳月

## 環境大臣賞金賞 学生部門

長崎県立諫早農業高等学校
生物工学部 新エネルギー研究班

## 環境大臣賞金賞 地域部門

米子工業高等専門学校
B&C研究同好会

## 文部科学大臣賞 社会活動分野

ファインモータースクール

## 文部科学大臣賞 学生活動分野

静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ

セブン-イレブン記念財団
最優秀地域活性化賞

広島県立油木高等学校
ミツバチプロジェクト

LIXIL
最優秀エコライフ活動賞

鹿児島県立薩南工業高等学校
建築工作同好会

ユニ・チャーム
最優秀エコチャーミング賞

千葉大学環境ISO学生委員会

ニトリ
最優秀夢・未来賞

横浜市資源リサイクル事業協同組合

ウジエスーパー
最優秀エコーガニック賞

愛知県立佐屋高等学校

損保ジャパン日本興亜環境財団
最優秀わくわく未来賞

音力発電

タカラトミー
最優秀次世代賞

大阪府立長吉高等学校 サッカー部

キリン
最優秀学生チャレンジ賞

大分県立玖珠美山高等学校
チーム野菜

オルタナ
最優秀ストーリー賞

TOKYO油田2017（ユーズ）

気象キャスターネットワーク
最優秀地域・学校エコ活動賞

庄内町地球温暖化対策地域協議会

オーディエンス賞

スモリ工業（左）

長崎県立諫早農業高等学校
生物工学部 新エネルギー研究班（右）

審査委員特別賞

子ども環境プロジェクト
（学童プレハブー6℃作戦）

# 低炭素杯2016当日の会場の様子

ロビー展示

トロフィー展示

受付時の様子

会場には沢山の方にお越し頂きました

１日目プレゼン発表

１日目交流会

２日目表彰式

# ファイナリスト紹介

全国各地で温暖化防止対策に取組む先鋭の中から低炭素杯2016におけるファイナリストに選ばれた38団体をご紹介致します。

## 低炭素杯 2016
## ファイナリスト賞
Low Carbon Cup 2016
FINALIST

| | | |
|---|---|---|
| 1 | KDDI | 東京都 |
| 2 | ジーベックシステム | 埼玉県 |
| 3 | 田中建材 | 滋賀県 |
| 4 | 岩井化成 | 茨城県 |
| 5 | 音力発電 | 神奈川県 |
| 6 | スモリ工業 | 宮城県 |
| 7 | 山梨罐詰、静岡県工業技術研究所 | 静岡県 |
| 8 | 三和酒類 | 大分県 |
| 9 | 横浜市資源リサイクル事業協同組合 | 神奈川県 |
| 10 | サンデンファシリティ　ECOSグループ | 群馬県 |
| 11 | セコム | 東京都 |
| 12 | ファインモータースクール | 埼玉県 |
| 13 | タキロン | 東京都 |
| 14 | 三菱地所、日本電気 | 東京都 |
| 15 | 昭和電工　川崎事業所 | 神奈川県 |
| 16 | 広島県立油木高等学校　ミツバチプロジェクト | 広島県 |
| 17 | 長崎県立諫早農業高等学校　生物工学部　新エネルギー研究班 | 長崎県 |
| 18 | 大阪府立長吉高等学校　サッカー部 | 大阪府 |
| 19 | 江東区立八名川小学校５学年 | 東京都 |
| 20 | 愛知県立佐屋高等学校 | 愛知県 |
| 21 | 鹿児島県立薩南工業高等学校　建築工作同好会 | 鹿児島県 |
| 22 | 大分県立玖珠美山高等学校　チーム野菜 | 大分県 |
| 23 | 静岡県立富岳館高等学校　農業クラブ | 静岡県 |
| 24 | 静岡県工業技術研究所、静岡油化工業 | 静岡県 |
| 25 | 葛巻町 | 岩手県 |
| 26 | 柳月 | 北海道 |
| 27 | TOKYO油田2017（ユーズ） | 東京都 |
| 28 | しずおか未来エネルギー | 静岡県 |
| 29 | 岡山西温暖化対策地域協議会 | 岡山県 |
| 30 | 内濱太鼓台世話人会 | 香川県 |
| 31 | 省エネ推進ネットワークぬまづ | 静岡県 |
| 32 | 江東エコライフ協議会 | 東京都 |
| 33 | 千葉大学環境ISO学生委員会 | 千葉県 |
| 34 | 福岡アイランドシティ　CO2ゼロプロジェクトチーム | 福岡県 |
| 35 | 子ども環境プロジェクト（学童プレハブ－６℃作戦） | 岡山県 |
| 36 | はちがめ生ごみステーション市民の会　栄町グループ | 佐賀県 |
| 37 | 米子工業高等専門学校　B&C研究同好会 | 鳥取県 |
| 38 | 庄内町地球温暖化対策地域協議会 | 山形県 |

地域エネルギー部門

環境大臣賞　グランプリ

# 静岡発!!みんなで創る地域発電所

## しずおか未来エネルギー

〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町12-5丸伸ビル2階
☎054-260-4414　http://s-miraienergy.com/index.html

「地域に住まうみんなで創る、地域のための再生可能エネルギー」をコンセプトに、NPOと地元企業で株式会社を立上げ、多くの市民が集まる象徴的な市有施設に太陽光発電を設置。資金調達には全国初の小口市民ファンドと、無担保無補償融資を取入れ、低炭素社会実現のため再生可能エネルギーの導入に取組んでいます。加えて、幅広いネットワークを活かした環境教育等を実施し、普及・啓発にも力を入れています。

**審査委員長コメント**

しずおか未来エネルギーの取組の素晴らしいところは、産業界・学校・地方自治体・市民そして地元金融機関が連携し、それぞれが再生可能エネルギーの普及へ向けて貢献できることやノウハウを最大限に出し合って、市民小口ファンドによる市民電力事業を形にしたことにある。

プレゼンテーションでもそのプロセスをわかりやすく見せたことも、多くの審査委員からとても共感でき、かつこれまでに無いもので大変大きく評価された。

また、停電時に自立運転で電気を供給でき、災害時の避難拠点としても機能できるなど、特筆すべきことである。

電力・ガス小売自由化時代へ向け、企業でも自治体でもない市民による第三のエネルギー会社のモデルケースとして是非とも今後の低炭素社会をリードしていって頂きたい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

企業部門

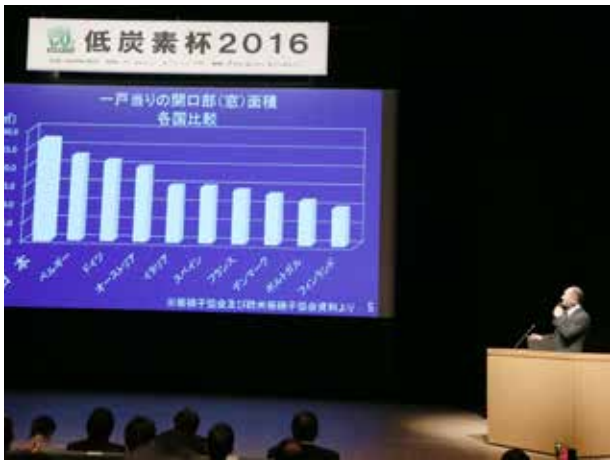
環境大臣賞　金賞（企業部門）

# 昼光利用による建築物の低炭素化の推進


## タキロン

〒108-6031 東京都港区港南２丁目15番１号　品川インターシティＡ棟31階
☎03-6711-3722　http://www.takiron.co.jp


弊社にて開発・製造したポリカーボネート複層板を、建築物のトップライト・ハイサイドライトに大規模に利用することにより、昼光利用を最大化し、大幅な低炭素化に寄与しています。閉鎖的になりがちな工場・倉庫、防災機能を兼ね備えた体育館などの大規模建築物の明かり採りとして利用されています。



**審査委員長コメント**

タキロンの開発したポリカーボネート複層板の建築物への応用は、優れた断熱性のみならず外から多くの光を取り入れられることにより照明の電気も節約できる。

そのうえ軽量で地震にも強く、コスト削減効果もあり、かつ地域の防犯にも貢献するという、まさに一石四鳥、五鳥もの建築素材を開発、実用化したことは大いに評価できる。

とりわけ学校の体育館など災害時の避難拠点として停電時にも光をたくさん室内に取り入れられることは、今後とても重要な付加価値として様々な防災拠点への応用とその平時利用による大きな CO2 削減効果が見込まれる。より一層の他の建築物への普及へ向けて防火対策などさらなる技術開発も期待したい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

学生部門　環境大臣賞　金賞（学生部門）　オーディエンス賞

# 低微生物を用いた未利用バイオマスの研究 ～地域で目指す実用化～


## 長崎県立諫早農業高等学校　生物工学部　新エネルギー研究班

〒854-0043 長崎県諫早市立石町1003番地
☎0957-22-0050　http://www.news.ed.jp/isahaya-ah/


平成21年度からバイオマス燃料の開発を目標に研究を開始し、平成23年度から長崎県環境保健研究センターの依頼により諫早湾干拓地のヨシからのバイオエタノール生成実験を行っている。平成25年度までにヨシに付着していた微生物によりセルロースの糖化、アルコール発酵に成功した。さらに現在は、生成したエタノールをバイオディーゼル燃料の触媒として実用化するための研究活動を展開している。

**審査委員長コメント**

諫早湾干拓地に多く群生しているヨシを守ることだけでもCO2削減、水質浄化効果があるが、一方でそのヨシを守るためにはそのヨシの定期的な刈り込みが必要である。

長崎県立諫早農業高等学校 生物工学部新エネルギー研究班の取り組みは、このヨシからのエタノールの生成に成功したのみならず、それをバイオディーゼル燃料の触媒活用、さらにはその副産物で出てくるヨシの残査から和紙の製造に成功する等、地域資源活用、地域循環型まちづくりの実現へ向けたイノベーションの貢献は極めて大きい。

また、地域の幼稚園と連携した廃棄油回収活動など地域の多くの方々が参画する取り組みとなっていることも大きく評価できる。今後のバイオディーゼル普及への新展開としても期待したい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

地域エネルギー部門　環境大臣賞　金賞（地域エネルギー部門）

# 柳月が目指す CO2 ゼロの菓子創り

## 柳月

〒080-0342 北海道河東郡音更町下音更北９線西 18-2
☎0155-32-5566　http://www.ryugetsu.co.jp/

柳月では東日本大震災以降、増え続ける電力需要を賄い、万が一の緊急時にも工場を防災拠点として地域に提供し、かつ生産を続けることが可能なようにしたいという皆の創意から【柳月スイートピア・ガーデン太陽光発電所】を音更町 IC 工業団地内に 1000kW で建設しました。地元産の原料とクリーンエネルギーで安全なお菓子を創り、皆さんのご家庭に笑顔と真心をお届けするのが弊社の夢なのです。

**審査委員長コメント**

柳月は以前より地産地消のお菓子作りを実践してきていたが、そのお菓子を作るエネルギーも再生可能エネルギーによる地産地消でまかなうゼロエネルギー工場実現へ向けた取り組みと大きく評価できる。

また北海道初のメガソーラーであるが、特に、雪国でのメガソーラーの課題である雪害を解決するための様々な取り組み、そして工場の省エネへ向けた様々な取り組み、従業員や地域住民を巻き込んだ省エネナビによる取り組みなどは特筆すべきである。

さらに今後カーボンオフセットを活用したモデルは新しい低炭素社会を波及させていくモデルとして大いに期待したい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

地域部門

環境大臣賞　金賞（地域部門）

# 食品廃棄物を活用した流通食品のロスを減らすための取組


## 米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448
☎0859-24-5158　http://www.yonago-k.ac.jp/


本取組は、食品の保存期間の長期化や品質保持に用いられる食品添加物に関する新たな提案として、卵殻膜の本来示す機能である中身を守る機能を卵以外の食品を守る機能として応用する取り組みである。我々は、卵殻膜の構造的な特徴を機能として取り出すことで、作物の着色劣化を抑える添加物を作り出し、実用化を視野に入れた劣化抑制効果として向上させるための研究等を行っている。

**審査委員長コメント**

これまでも卵の殻の内皮から水素エネルギー社会へ向けた燃料電池の電解質膜をつくるなど米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会の取り組みは大きな評価を得てきているが、同じ卵殻膜活用でも今回はこれまでとは全く異なる食品の劣化を防ぐ食品添加物の開発に成功したことは驚くべきことである。卵殻膜の本来の機能を廃棄後も活かすというとても画期的なものだ。

この技術で食品ロスが減ることによる CO2 削減効果、廃棄物削減効果は極めて大きい。

またこうした高校生の取り組みが、第一線の研究機関や全国規模の大手食品メーカーなどとの研究開発にまで発展してきていることは同研究のレベルの高さを象徴しており、今後の実用化へ向け大いに期待するところである。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

企業部門　文部科学大臣賞　社会活動分野

# 教習所が発信するエコドライブ！
# ～誤解を解き自主的な実践を～


## ファインモータースクール

〒330-0804 埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-322-3
☎048-641-7185　http://www.fine-motorschool.co.jp/


免許の取得段階で自然とエコドライブが身につく「楽エコ教習」を基軸とし、小学校でのエコドライブ寸劇、教習所開放イベント、森づくり活動支援を通じた環境教育、中高生の職場体験、自治体職員向けのエコドライブ指導者養成、地域イベントへの出展、地元住民向けの無料出張エコドライブ講話、燃費管理ウェブサイトの運営など多様な取り組みを通じて、様々な人に向けてエコドライブの誤解を解き良さを伝える取り組みをしています。

**審査委員長コメント**

ファインモータースクールのプレゼンテーションを聞いた後の審査委員の感想は「これはもはや自動車教習所の取り組みをはるかに超えた画期的な取り組みだ」というものだった。

エコドライブの普及促進活動のみならず環境全般の教育を小中学校や地域の NPO などと連携してターゲットごとに寸劇など工夫を凝らして展開しているのにはまさに脱帽である。

運転時の CO2 削減ポテンシャルはまだまだ大きいため、エコドライブ教習を日本で初めてスタートさせたファインモータースクールの功績は極めて大きい。

この取り組みが自動車教習所を出て地域へ、そして今後は是非とも全国へその日本のリーダーとしてさらにスケールアップして行って頂くことを期待している。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

学生部門　文部科学大臣賞　学生活動分野

# 「究極のエコ資材」
# ～被災地の緑化を目指す高校生の環境活動～


## 静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ

〒418-0073 静岡県富士宮市弓沢町732
☎0544-27-3205　http://www.fugakukan-h.sakura.ne.jp/


私達は被災地（宮城県鳴瀬川）の河口堤防の法面等（塩害・乾燥ストレス）を緑化するため、第３のエコ資材「AOH チップ」（「AHX チップ」の効果を上回る）を新たに考案・開発、被災地で検証、静岡県内・県外の環境保全を行った（二酸化炭素削減）。広報活動（チップの活用）にも力を入れ、津波被害を受けたサクラ（塩害）の樹勢回復を試みた。さらに、被災地の NPO と連携し、東北の幼稚園児にエコ授業を実施した。

**審査委員長コメント**

東日本大震災でのその津波被害の大きさは多くの犠牲者を生んだのみならず、復興にも未だに多くの難題が山積している。

こうした状況を打ち破る可能性を感じさせる静岡県立富岳館高等学校 農業クラブでの日本初の塩害・乾燥に強い廃材を活用したエコ資材「AOH チップ」の開発及び実際の被災地での実用化は実に素晴らしい。

加えて、被災地の NPO と連携して被災地の幼稚園でこの取り組みに関する出前授業を行ったり、被災地の農業高校と連携した地域資源を活用した「AOH チップ」による緑化への展開を行うなど、被災した地元とのしっかりとした連携はとりわけ評価できる。

今後「AOH チップ」の役割はより一層増していくと考えられる。今後の普及に期待したい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

学生部門　セブン-イレブン記念財団最優秀地域活性化賞

# ミツバチとともに里山保全を目指して

## 広島県立油木高等学校 ミツバチプロジェクト

〒720-1812 広島県神石郡神石高原町油木乙1965
☎0847-82-0006　http://www.yuki-h.hiroshima-c.ed.jp/

最優秀地域活性化賞
情報誌「みどりの風」
紙面への記事掲載
一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

神石高原町はかつて養蜂の盛んな地域でしたが、海外から安い蜂蜜の輸入増加にともない里山の養蜂は人々の生活から遠のき、養蜂技術が失われました。そこで、地域活性化として、養蜂を復活させ、ミツバチの里として、花を育てることで里山保全と地域交流の場を作りました。高齢者でもできる養蜂を広め、実際に４件の家で始められ、花畑は 6ha まで広がり、今年からは花が咲く木を植樹する活動を行っています。

**審査コメント**

広島県神石群神石高原町において、かつて養蜂の盛んな地域が人口減少している耕作放棄地に花畑を作り養蜂技術を復活し、現在４軒で始められた花畑は６ha まで広がり、今年からは花が咲く木を植樹する活動を行っています。高齢者でもできる養蜂を広めて、生産された蜂蜜は道の駅で販売されるだけではなく、地元ホテルでのスイーツにも活用されております。里山保全と生産される蜂蜜を使った活動が地域活性化の評価の点でした。

―― セブン - イレブン記念財団　地域活動支援事業マネージャー　小野 弘人

学生部門　LIXIL 最優秀エコライフ活動賞

# 知覧型木材循環システム～木をもらう→作る→贈る・育てる→～

## 鹿児島県立薩南工業高等学校　建築工作同好会

〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡5232番地
☎0993-83-2214　http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Satsunan/

最優秀エコライフ活動賞
LIXIL HP での紹介と広報支援
LIXIL

地元建設会社から産廃として廃棄予定の木材をもらい、製材し、木工の練習をしています。そこで出た廃材を使って幼稚園、小中学生に木工教室をおこなったり、公共施設やバス停、保育園などに木工品寄贈活動を行っています。また製材や加工で出た「おがくず」は子牛のベッドとして牛の畜産家へ、「木端」は薪割の困難な市民へ風呂焚き用薪として提供しています。予算が必要なく各々にメリットがある活動なので継続可能な取組です。

**審査コメント**

木材はその成長過程で $CO_2$ を蓄積する自然界にとって有益な資源ですが、住宅などを建築する際に端材が発生し、それらを焼却してしまうと $CO_2$ が排出されます。薩南工業高校建築工作同好会のみなさんは、建築現場等で出る端材を自らの木工技術の向上に役立て、さらに制作した木工品を寄贈したり、小・中学校で木工教室を開催したり、かんな屑を畜産家に寄贈し牛舎で使用いただくなど、廃材を徹底的に活用することで $CO_2$ 排出を抑制し、かつ地域貢献されている点を高く評価しました。一連の活動は関係者全てに喜ばれる持続的な活動であり、大変素晴らしいことです。住まいと暮らしの総合住生活企業 LIXIL として、このような建築に携わる若い世代の育成も支援したいと考えます。

―― LIXIL　EHS 推進部 部長　川上 敏弘

地域部門

## ユニ・チャーム最優秀エコチャーミング賞

# 学生を主体とした大学の環境マネジメントシステム運用活動


### 千葉大学環境ISO学生委員会

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
☎043-290-3572　http://env.chiba-univ.net/


最優秀エコチャーミング賞
ユニ・チャーム HP 内
での活動紹介
unicharm
やさしさをつくる。やさしさでささえる。

千葉大学の環境マネジメントシステム（以下 EMS）を担う公式な組織として、大学と連携した様々な活動を学生主体で行っている。省エネ省資源などの環境負荷削減の意識啓発や実践活動だけでなく、内部監査、環境報告書作成、研修講師なども担っている。また、NPO 法人としても活動しており、地域の子供達への環境教育や、企業と連携した環境事業、植物を通じた被災地支援なども行うなど、多岐にわたった活動をしている。

**審査コメント**

千葉大学の環境マネジメントシステム ISO14001は学生主体で運用しており、マネジメントの基本である PDCAが省エネ省資源などの環境負荷削減の意識啓発や実践活動、内部監査等に反映されしっかり運用されていました。

また、千葉大学では環境の知識や実務など様々なノウハウが学べる活動を、大学の授業として単位化し、低炭素化に実務的に取り組むことができる人材を育成しており評価すべき点だと判断致しました。今後、社会で活躍される学生として自らが主役であるという意識の高さ、実行力、未来への希望（環境負荷低減や地域小中学生への出張 Eco教室等 )、地域に根ざした行動力を評価致しました。

発表では学生らしい緊張感がチャーミングであった事も考慮し決定致しました。

―― ユニ・チャーム　CSR 本部 環境推進 G マネージャー　石村 令子

企業部門

## ニトリ最優秀夢・未来賞

# 小学生のアイデアを社会課題の解決に役立てる！「環境絵日記」


### 横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒221-0054 神奈川県横浜市神奈川区山内町13番地
☎045-444-2531　http://www.recycledesign.or.jp/enikki/yokohama.html


最優秀夢・未来賞
ニトリ HP 内での活動紹介
及び記念品の贈呈
ニトリ
NITORI

環境絵日記は、環境問題について子供達が家族で話し合ったことや自分で考えた内容を、絵と文章の組み合わせで自由に表現するものです。小学生とその家族が一緒に環境問題を考えることで、家庭単位での環境問題についての意識醸成のきっかけを作ります。また子供達が環境に対する正しい知識を身につけて「新しい環境意識」を育んでいくことを願って、夏休みに横浜市内の子供達から募集し、特に優秀な作品については表彰しています。

**審査コメント**

今年から創設させて頂いたニトリ夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来をみんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。

受賞された横浜市資源リサイクル事業協同組合の取り組みは、単なるリサイクル活動の啓発のみならず、「環境絵日記」により未来を担う子どもたちが能動的に参加することで、自らが「こうありたい」と願う理想の街をより具体的に表現するものとなっています。

色鮮やかに描き出された子どもたちの自由で柔軟な発想が、環境問題だけにとどまることなく、弊社の目標でもある「豊かな暮らし」づくりの原動力となり、日本から世界へと広がっていくことを願っています。

――ニトリホールディングス　代表取締役社長　白井 俊之

学生部門

## ウジエスーパー最優秀エコーガニック賞

# アヒル農法でホタル舞う水田環境を実現

### 愛知県立佐屋高等学校

〒496-0914 愛知県愛西市東條町高田39番地
☎0567-31-0579　http://www.saya-h.aichi-c.ed.jp/

最優秀エコーガニック賞
「無限のぼり米」一俵

「農薬を使いますか？アヒルを使いますか？」をスローガンに、私達は５年前から「アヒル農法」によるコメ作りに取り組んできました。農業の機械化と近代化の波により、私たちの心と体に深く染みこんだ生活様式と価値観が環境を破壊し、多くの生き物を絶滅に追い込んできました。世界的に食の安全・安心が脅かされている今だからこそ、私たちは多くの生き物を暮らしの中に受け入れていく「文化・環境」を再生することが必要です。

**審査コメント**

高等学校の生徒が地域と連携し「アヒル農法での米づくり」に挑んだ取組です。

自然の力で生態系を取り戻して五年目、生徒さんのまっすぐな輝く瞳が未来を照らすようなすがすがしい発表でした。

農薬、除草剤でホタルが消えた地域が見事にホタル蘇る地域に変貌させた活動はまさに「エコ」と「オーガニック」の同時実現を果たしております。

この取組は私達の設定した「最優秀エコーガニック賞」に最も相応しく、貴校に贈呈させていただく私達にとっても大きな喜びです。

この取組を日本中の農業系高校が積極的に学び、水平展開される未来に大きな期待をさせて頂きます。

愛知県立佐屋高等学校の皆さん、本当におめでとうございました。

――ウジエスーパー　常務取締役　吉田 芳弘

企業部門

## 損保ジャパン日本興亜環境財団最優秀わくわく未来賞

# 歩いて発電、安全な路や階段！踊って発電、楽しいイベント！

### 音力発電

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤4489-105　慶應藤沢イノベーションビレッジ
http://www.soundpower.co.jp/index.html

最優秀わくわく未来賞
財団主催の環境講座
イベントへご招待
損保ジャパン日本興亜環境財団

既存の電力を全く使わず、振動力発電技術を利用した「発電床」の上を人が歩くことで自ら発電し、色鮮やかなLEDが点滅し、通行路を浮かび上がらせることができます。災害時や停電時に、迷うことなく非常口に導いてくれたり、夜間に通路や階段を安全に通行することができます。また、イベントで「発電床」の上でダンサーが踊ることで発電し、イルミネーション用のLEDがピカピカ点滅し、楽しさを倍増します。

**審査コメント**

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来に繋がる心が弾むような取組みを応援したいと考えております。貴社の新動力発電技術は、もちろんそれ自体も素晴らしいものですが、人が歩くことで自ら発電し、色鮮やかなLEDが点滅するといった、まさに「わくわく」するような取組みと感じました。

低炭素社会に向けた試みは、やはりこうした楽しみを盛り込むことで、持続性を持つのではないでしょうか。またこの先の開発によって、身近な振動による発電を用いた大きな何かが期待できるかもしれない、貴社そのものの将来にもわくわくします。

――損保ジャパン日本興亜環境財団　事務局長　更井 徳子

学生部門　タカラトミー最優秀次世代賞

# One Goal One Smile ～笑顔の生まれる活動へ～

## 大阪府立長吉高等学校 サッカー部

〒547-0015 大阪府大阪市平野区長吉長原西 3-11-33
☎06-6790-0700　http://www.osaka-c.ed.jp/nagayoshi/index.html

最優秀次世代賞
タカラトミーHP内での活動紹介と、
オリジナル認定書贈呈
TAKARA TOMY GROUP

サッカーの試合で 1 点入れるごとに、1 回の地域清掃活動を行っています。週に 1 回おこなうことを目標に、学校周辺の歩道、公園、最寄り駅の周辺や通学路でおこなっています。「長吉高校 Smile Cup」という中学生のサッカー大会を実施するなど、他の学校のサッカー部と連携しながら地道な地球環境保全活動を継続して行っています。

**事務局コメント**

低炭素杯にサッカー部の登場です。

活動を通して環境に関心を持つことができ、清掃することで地域の人たちと会話が生まれ、喜ばれることで笑顔が連鎖する。身近なところからできる取組みが、地域や他校を捲込み広がっているすばらしい事例です。

当日のプレゼンテーションでは、「少年時代を過ごした公園にお返しをしたい！」このフレーズに心を打たれました。キャプテンのリフティングは会場をわかせましたね。

今後のさらなる笑顔の広がりに期待します！

―― タカラトミー　連結総務人事室環境課 総務部環境課 課長　高林 慎享

学生部門　キリン最優秀学生チャレンジ賞

# バークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ Ⅱ

## 大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜

〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町帆足 160 番地
☎0973-72-1148　http://kou.oita-ed.jp/kusumiyama

最優秀学生チャレンジ賞
キリン HP・SNS 内で
活動を紹介
KIRIN

資源の有効利用、環境保全の観点から地元日田玖珠地域から大量に産出されるスギ樹皮バークを活用した循環型農場経営を学校あげて取り組むことにした。今回のプロジェクトは、単に「バークを使ってみる」だけではなく、バークを通して有機的に結びついた農場経営を提案し農作物の収量、食味、栽培方法の確立を行い、この地域に実際に定着させることができるかなどを科学的に検証し最終的には地域の農家へ提案しようと考えている。

**事務局コメント**

地域の特産にまつわる廃棄物を有効活用して、農産物の生育がよくなる農業資材を開発し、地元の農家で試験栽培が始まるなど、研究成果を地域と連携して実用化に向けて取り組んでいる好事例として評価させていただきました。次代を担う高校生が、学校での活動に留まらず、地元の産業振興につながる取り組みに、「最優秀学生チャレンジ賞」をお贈りします。今後、多くの農家の方々に活用されて品質のよい作物がたくさん収穫されることや、学校の後輩の皆さんにも引き継がれ、新たな発展がなされることを期待します。

―― キリン　執行役員 CSV 本部 CSV 推進部長　林田 昌也

地域エネルギー部門　オルタナ最優秀ストーリー賞

# TOKYO油田2017プロジェクト

## TOKYO油田2017（ユーズ）

〒131-0041 東京都墨田区八広3-39-5
☎03-3613-1615　http://www.tokyoyuden.jp/

最優秀ストーリー賞
雑誌「オルタナ」紙面への
記事掲載と冊子提供
alterna

使用済み天ぷら油を処理し、CO2を増やさないバイオ燃料などに再資源化しています。この天ぷら油エネルギー（バイオ燃料）は、独自に開発した植物油の軽油代替燃料：VDFで、車を走らせ、発電もできます。生活から出た食用油を地域に根差したネットワークを通して回収し、新たなエネルギー資源を生み出しています。再資源化することにより、生活環境の改善に貢献し、新時代のリサイクルプロジェクトに取り組んでいます。

**事務局コメント**

TOKYO油田2017（東京都）は、ユーズ（東京都墨田区）が2017年までに東京で使われた全ての天ぷら油を回収し、バイオディーゼル燃料化して有効利用しようというプロジェクトだ。一つの企業の事業活動だけではなく、たまプラーザ地区（横浜市）やアースディ東京、目黒川のイルミネーションなど各地域でのエコ活動と連動し、市民の意識を高めるネットワークに成長してきた点が素晴らしく、「オルタナ 最優秀ストーリー賞」に選ばせていただいた。一方で、企業や住民の無関心、業界の既得権益という大きな壁が存在するのも事実で、これからも「壁を破る」ための努力を続けていってほしい。

―― オルタナ　代表取締役・編集長　森 摂

地域部門　気象キャスターネットワーク最優秀地域・学校エコ活動賞

# 『庄内町町民節電所』事業

## 庄内町地球温暖化対策地域協議会

〒999-6601 山形県東田川郡庄内町狩川字笠山444-9
☎0234-56-3360

最優秀地域・学校エコ活動賞
気象キャスターによる出前講座の実施
Weather Caster Network
気象キャスターネットワーク

毎年町の広報で募集をし参加者を募ります。参加者からは7月、8月と節電を頑張ってもらい、期間終了後電力会社の検針表を添付した報告を頂き、事務局で集計し、前年、前々年と比較し、使用量が少なければ節電達成世帯として顕彰します。参加賞として町で使える商品券を提供し商店街の活性化も図っています。また、ホタルの飛ぶ頃には皆で手作りしたキャンドルで、ホタルキャンドルナイトを実施し楽しみます。

**事務局コメント**

全国に先駆けて設置された風力発電所だけに頼ることなく、節電の風を吹かせようと「町民節電所」と銘打って、町民の半数が参加する省エネ活動に広がっていることは大変素晴らしいです。また、子供たちの節電や節水の活動の他、参加者への副賞として地域活性化につながる商品券というのも、継続するためのよいアイデアです。一人一人の効果は小さいかもしれませんが、「がまんでなく自慢」をモットーにした庄内地域の取り組みが全国に波及することを期待しています。

―― 気象キャスターネットワーク　事務局長　岩谷 忠幸

企業部門　オーディエンス賞

# 消費者が建築に参加できる低炭素な家造り

## スモリ工業

〒983-0013宮城県仙台市宮城野区中野１丁目５番地９
☎022-254-2233　http://sumori.jp

オーディエンス賞
マクドナルド商品券

「山からの一貫体制による家造り」は木材産地の工場で木材を最終段階まで加工、そのまま運搬、建築まで行う建築法。部材の現場加工がなく、組立るだけとなる為、簡単な研修で消費者も自らの家の建築に参加する事ができる。必然的に国産材100％となり、現場廃棄物が極めて少ない。基礎はコンクリートなしのハイパーパイル工法。基礎までの解体再建築に対応した 4R 住宅。極めて高性能省エネ・低コスト。メンテナンス負荷も低い。

**事務局コメント**

スモリ工業の取り組みの画期的なところは、実に「全戸、全室」国産材活用を 17 年間継続してきているところである。これは年間 280 棟もの住宅を供給するような規模の企業ではなかなか出来ることではない。それを可能にした「山からの一貫体制の家づくり」は日本を代表する国産材活用のモデルと言えるだろう。加えて素材から家づくり、そして廃棄されるまで全てのプロセスで無駄がなく、これは結果として日本の森林を守るだけではなく、住宅ユーザーの方々にもコストパフォーマンスの良さとしてフィードバックされている。またこうした取り組みは大工さんの人手不足にも大いに貢献できる可能性のあるのに加えて、地場産業と互助の目的でこのノウハウとブランドが無償で提供されているなどの企業姿勢はまさに称賛に値する。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

地域部門　審査委員特別賞

# 学童プレハブ－6℃作戦

## 子ども環境プロジェクト（学童プレハブ－6℃作戦）

〒700-0867岡山県岡山市北区岡町14-9　岡町ビル202
☎090-7131-5672　https://www.facebook.com/gakudoucool

子どもたちの放課後や長期休業の生活の場である学童保育。岡山市の場合はその６割がプレハブである。夏の暑さ、冬の寒さがとても厳しい上に、その改善に取り組む余裕がないのが現状である。運営者、保護者、地域コミュニティ、環境 NPO、地元中小企業がグループを結成し環境にやさしくローコストで、効果の上がる方法を考え、実施し、子どもたちにも環境教育をしながら、社会への問題提起をしている。

**事務局コメント**

子供環境プロジェクト（学童プレハブ－ 6℃作戦）のすばらしいところは、学童保育関係者のみならず、外部の企業や専門家、NPO などが協力し合いノウハウを出し合い、大幅な $CO_2$ 削減とともに子供たちの保育環境を劇的に改善させたこと。

そしてこうした取組を通じて子供たちへの環境教育にも繋がっていることにある。その困りごとを地域で解決している好例といえる。

さらに、継続性につながるゴーヤのグリーンカーテンのような取組を中心としていることも評価できる。これがきっかけで多くの企業などからの提案も出てくるなど波及性も充分で、今後の展開にも大いに期待したい。

―― 企画・審査委員長　金谷 年展

企業部門

# 使用済み携帯電話のリサイクル推進

## KDDI

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー
☎03-6678-0720　http://media3.kddi.com/extlib/files/corporate/csr/environment/pdf/2015_env_04.pdf

循環型社会の実現のため、お客さまが不要となった使用済み携帯電話を販売店である au ショップで無償で回収している。回収した携帯電話は、KDDI 指定のリサイクル工場で手作業で分解し、各素材に分けられリサイクルされる。手分解を行なうリサイクル工程の一部は、KDDI におけるダイバーシティ施策の一環として、障がいのある方の雇用を促進するために設立された特例子会社である KDDI チャレンジドで実施している。

企業部門

# 次世代地中熱システム「GBEC システム」の開発と事業展開

## ジーベックシステム

〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合一丁目 11 番 15 号（埼玉本店）
☎048-851-2655　http://www.g-bec.net/

ジーベックシステム㈱では、共同出資会社の㈱アグリクラスターが開発した高効率な地中熱源ヒートクラスターを中心とした地中熱源「GBEC」（地中熱利用の一次側）と、ジーベックシステム㈱の推奨する「ヒートポンプ」（地中熱利用の二次側の一部）を主体とする「地中熱源冷暖房システム」を開発。それに関わる設計方法・保証制度・営業手法・施工技術・知的財産権など地中熱源冷暖房設備の販売・工事事業を展開しています。

企業部門

## 木質加熱アスファルト舗装の普及による低炭素社会への取組

### 田中建材

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1677番地14
☎0740-22-0217　http://www.tanakakenzai.co.jp

建設廃木材や間伐材の廃木質をチップ化後アスファルトと加熱混合した舗装材です。主に公園・ジョギングコース・サイクリングロード等の歩道や一部駐車場を含む建築物の外構に活用しています。木質の優れた断熱特性を活用したヒートアイランド対策並びに CO2 の歩道への固定化による地球温暖化対策にも有効であると共に、適度な弾力性能による膝関節への負担を軽減した歩行感覚が実感でき環境と人との関わりを大切にしています。

企業部門

## 売り手よし、買い手よし、世間よし！ワン to ワンのリサイクル

### 岩井化成

〒306-0605 茨城県坂東市馬立南台1263-2
☎0297-35-1879　http://www.iwaikasei.co.jp/

ポリエチレンのリサイクルを多種企業から集めてくる場合、混合物を仕分けし、風力・重力・破砕機を通して分別リサイクルを行っていますが、人手とともに機械を回すなど、CO2 排出過多の事業となります。弊社では、地域の企業や行政に呼びかけを行い、1 社ごとに同じものを回収、その素材で、再生可能な製品を製造し、提供企業に戻していく「ワン to ワン」の低炭素リサイクルを提案します。

企業部門

## 缶詰工場から排出されるシロップ廃液を利用したバイオマス発電

### 山梨罐詰、静岡県工業技術研究所

〒424-0204 静岡県静岡市清水区興津中町974番地
☎054-369-1101　http://www.yamanashi-kanzume.co.jp

本取組では、カップゼリーの製造過程で発生するシロップ廃液を利用した小型メタンプラントを弊社敷地内に建設し、平成21年度より現在に至るまで稼働しています。メタンプラントでは、シロップ廃液は嫌気的に微生物分解され、最後に電力と熱に変わります。また、排水処理場で発生する余剰汚泥量も削減されます。即ち、本取組は、シロップ廃液をエネルギーに変え、余剰汚泥の発生量を削減することで、CO2削減に寄与します。

企業部門

## 焼酎粕を活用した環境負荷低減と資源循環による価値創造

### 三和酒類

〒879-0495 大分県宇佐市山本2231-1
☎0978-33-0066　http://www.iichiko.co.jp/comp/

環境負荷の低減と焼酎醸造副産物である焼酎粕をはじめとする。資源の有効活用により人と自然との共生を図る活動。

企業部門

## サンデンフォレストでの自然環境の創造的保全と地域連携

### サンデンファシリティ　ECOSグループ

〒371-0201 群馬県前橋市粕川町中之沢７番地
☎027-285-3225　http://www.sandenforest.com/

「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもと赤城山南麓で大規模な「近自然工法」を取り入れた事業用地造成を行い 2002 年に開設した「サンデンフォレスト・赤城事業所」。この地で、地元赤城にふさわしい生物多様性の回復・保全をモニタリング調査を通じて科学的に実現するために特定外来種の駆除や森林の保護・育成、豊かな自然環境を活用した環境教育の実践、NPO を通じて地域連携を積極的に実施している。

企業部門

## 地球温暖化防止活動
## ～くるまのエコ、ハード・ソフトの両面作戦～

### セコム

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-5-1
☎03-5775-8518　http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/

「環境基本理念」で、あらゆる事業活動において地球環境保全に配慮した行動をとることを宣言し、様々な環境保全活動を行っています。主力のセキュリティ事業では CO2 排出要因の約半分を車両燃料が占めることから、2008 年より、1) ハード面　①環境対策車の導入、②環境に配慮した最適な車両の選定 2) ソフト面　③エコ安全ドライブ、④社員啓発活動の両面から車両に因る CO2 排出量の削減に取り組んでいます。

企業部門

# 三菱地所グループ施設でEV・PHV用充電器導入

## 三菱地所、日本電気

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
☎03-3287-5780　三菱地所〉http://www.mec.co.jp/　日本電気〉http://jpn.nec.com/

三菱地所㈱と日本電気㈱（NEC）は、NECが開発したEV・PHV用普通充電器を設置し、三菱地所が購入する風力発電による自然エネルギーを活用したカーボンフリーの有料充電サービスの提供を開始します。本サービスではグリーン電力証書を活用し、風力発電による自然エネルギーを利用することで、EV・PHV走行時だけでなく充電用電力発電の際の、CO2排出量もゼロに抑え、低炭素型社会の形成に貢献して参ります。

企業部門

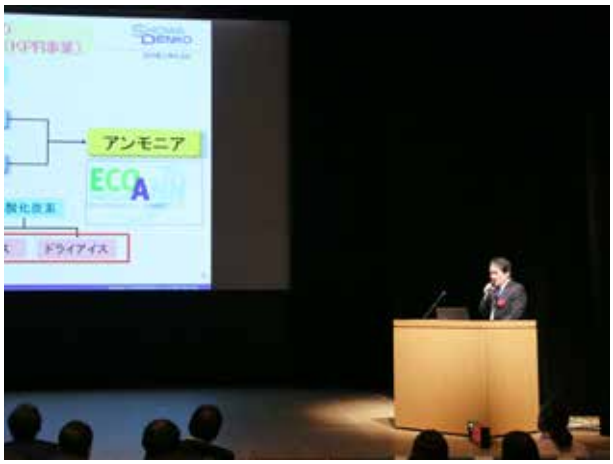
# 小中学生への環境・化学教育、及び従業員によるCO2削減の取組

## 昭和電工　川崎事業所

〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町5-1
☎044-322-6813　http://www.sdk.co.jp

2003年より使用済みプラスチックのアンモニア原料化事業を行なっていますが、小中学校、あるいは公共施設へ出張しての出前授業や、弊社工場見学時（主に夏休み中）のプラスチック分別体験・化学実験教室を通じたお子さんへの環境・化学教育の取組みを継続して行なっています。

また、アルミ缶リサイクル活動（目標：参加率100%）やCO2ダイエット活動（メニューの中から項目を従業員が選択）も継続実施しています。



学生部門

# 私達の手で地球温暖化をふせごう

## 江東区立八名川小学校 5学年

〒135-0007 東京都江東区新大橋3-1-15
☎03-3631-2260　http://www.koto.ed.jp/yanagawa-sho/

江東区の取り組みである「カーボンマイナスこどもアクション」に取り組み、これを通して本校では ESD で扱う環境の課題としてとらえ、その中で活動を行っている。この「カーボンマイナスこどもアクション」を単なるイベントにせずに、授業の中に位置付け、児童の主体的な学習として成立させようと取り組んできた。環境清掃部、温暖化対策課との連携も図ってきた。児童は CO2 削減を様々な場所で毎年積極的に発信し続けている。

地域エネルギー部門

# コーヒーかすをエネルギーに！<br>廃棄物を資源にする新環境ビジネス

## 静岡県工業技術研究所、静岡油化工業

〒421-1298 静岡県静岡市葵区牧ヶ谷2078
☎054-278-3024　静岡工業技術研究所〉http://www.iri.pref.shizuoka.jp/
静岡油化工業〉http://www.shizuokayuka.co.jp/

静岡県工業技術研究所は、静岡油化工業㈱と共同で、コーヒー飲料を製造する際に発生する「コーヒーかす」を燃料として資源化する技術を開発しました。コーヒーかすから固形燃料（ペレット）を製造し、バイオマスボイラーの燃料として工場内の熱源等に利用できます。同じバイオマス燃料である木質ペレットより割安で製造でき、熱効率が高いのが特徴です。飲料工場が集積する中部地方の新たなエネルギーとして期待されます。

地域エネルギー部門

# バイオマスプラントを活用した環境負荷軽減の取組

## 葛巻町

〒028-5495 岩手県岩手郡葛巻町葛巻 16-1-1
☎0195-66-2111　http://www.town.kuzumaki.iwate.jp

バイオマスプラントを設置されている「くずまき高原牧場」では、常時約 2 千頭の牛を飼育しており、そこで発生する家畜排泄物は堆肥化し肥料として農地還元を行う自然循環型の畜産を行っている。バイオマスプラント活用の取り組みは、従来の自然循環型の家畜排泄物の利用サイクルにバイオマスによる電気エネルギー生産等の仕組みを組み入れたもの。近年では、家庭ゴミである厨芥残渣もバイオマス原料として利用する仕組みへと発展。

地域部門

# みんなで学ぼう、地球温暖化

## 岡山西温暖化対策地域協議会

〒719-0303 岡山県浅口郡里庄町浜中 841-2
☎0865-64-4392

私たちの活動は、ESD の視点を取り入れた活動であり、家庭や学校、地域において地球 ( アース ) を守る人 ( キーパー ) を増やし、家庭のライフスタイルは、こどもから大人、高齢者に至るまで分かりやすく、温暖化ってどんなこと？二酸化炭素削減のために何が出来るかなど、活動によって家計を助け、節エネ、省エネに伴う温室効果ガスの削減のため、やさしいエコ活動を積極的に取り組みを行っている。

地域部門

# 太鼓台の運行などを通じた環境教育の取組

## 内濱太鼓台世話人会

〒762-0041 香川県坂出市八幡町 1-6-28
☎090-8962-3509　https://www.facebook.com/内濱太鼓台-613314552041453/

当団体では、地域固有の伝統文化である太鼓台の運行において、人力リアカーを積極的に活用しているほか、他に先駆けて低騒音クリーン排ガス対応型の発電機導入や LED ライト試行を図るなど、環境との調和に配慮したエコな太鼓台を目指しています。伝統文化の継承と一体的となった環境配慮への取り組みにより、次世代を担う子どもたちへの情操教育と環境教育の相乗効果を期待しつつ、地球温暖化防止を広く啓発しています。

地域部門

# 「エコのまち沼津」を目指して

## 省エネ推進ネットワークぬまづ

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町 16-1
☎055-934-4741
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sumai/kankyo/sonota/greencurtain/index.htm

平成 20 年度から自主的に継続開催している「緑のカーテン写真コンクール」をはじめとして、「エコドライブ講習」や「エコドライブステッカーの作成配布」、「夏休み親子エコ教室」の開催や市内の各種イベントへのブース出展による省エネ行動の啓発などを行っています。また、行政の主催する事業への積極的なサポートとして「ぬまづエコ活動コンテスト」や「沼津市環境基本計画」関連委員として幅広く協力しています。

地域部門

## カーボンマイナスこどもアクション

### 江東エコライフ協議会

〒135-8383 東京都江東区東陽 4-11-28
☎03-3647-6124　https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7281/27964.html

本取組みは、江東区内全区立小学校の 5・6 年生に、環境月間である 6 月の 1 ヶ月間、家庭において環境に配慮した行動に取組んでもらうものです。こどもたちは、「冷房温度 28℃設定」などの行動について、自分と家族の実践結果を、家族と一緒に毎日記録シートに記入し、CO2 削減量を自己評価します。平成 20 年度に取り組みを開始し、毎年、取組結果が優秀であった学校を対象に、表彰式と講演会を開催しています。

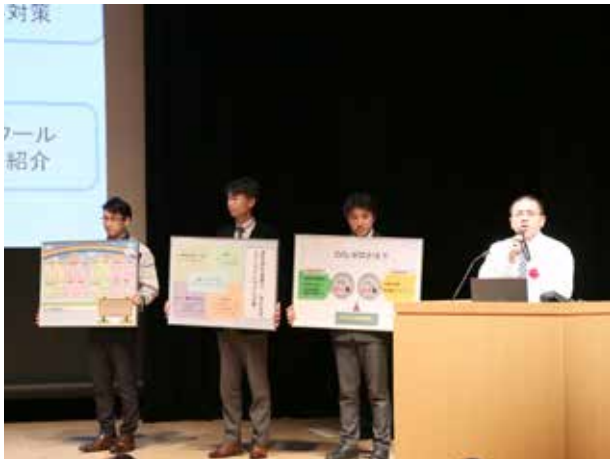
地域部門

## 産官学民で取り組む「街区全体 CO2 ゼロ」プロジェクト

### 福岡アイランドシティ　CO2 ゼロプロジェクトチーム

〒812-8620 福岡県福岡市博多区沖浜町 12-1　博多港センタービル 5F
☎092-282-7041　http://island-city.city.fukuoka.lg.jp/about/eco.html

当街区では、創エネ・省エネの設備・機器を集中導入するとともに、HEMS の活用により、各戸のエネルギー使用量の管理及びサーバーによる全戸エネルギーデータの集約を行い、街区全体や戸別のエネルギー使用量や CO2 排出量等を専用 web サイトなどで「見える化」した上、省 CO2 アドバイスを行うなど、「街区全体 CO2 排出量ゼロ」を目指しています。



地域部門

# 生ごみの有効利用による資源循環の地域社会を目指して

## はちがめ生ごみステーション市民の会 栄町グループ

〒848-0021
佐賀県伊万里市大坪町甲2488-6

「生ごみを宝に！」をコンセプトに市民活動として生ごみの資源化を行なっている伊万里はちがめプランを知った栄町区民の婦人会代表が見学会を行ないました。その素晴らしい取り組みに感動したメンバーが中心となり、生ごみ分別回収活動を平成15年12月より始めました。50世帯から始まった活動も現在では100世帯へと広がり、年間20トンの生ごみを回収し、資源化するため、はちがめプランに提供しています。

各団体の皆様、
お疲れ様でした！

# 低炭素杯2016　広報掲載一覧

「低炭素杯2016」ではエントリー募集から、開催結果まで、全国的に幅広く記事を取り上げていただきました。
本紙ではその内の、ごく一部を抜粋してご紹介いたします。

## 2015年

| | | |
|---|---|---|
| 7月30日 | Webサイト | 環境省報道発表資料 |
| 7月30日 | Webサイト | 緑のgoo |
| 7月30日 | Webサイト | 滋賀県環境保全協会 |
| 7月30日 | Webニュース | 中国ニュース速報 |
| 7月31日 | Webニュース | 環境ビジネスオンライン |
| 8月6日 | Webサイト | ふじのくにエコチャレンジ |
| 8月7日 | Webサイト | 長野県森林ボランティア支援センター |
| 8月12日 | Webサイト | 山口県産業廃棄物協会 |
| 8月14日 | Webサイト | 特定非営利活動法人<br>日本環境技術推進機構 |
| 11月27日 | Webニュース | WorkMaster |
| 11月27日 | Webサイト | PR TIMES |
| 11月27日 | Webサイト | KDDI公式HP |
| 12月2日 | 新聞 | 環境新聞 |
| 12月18日 | Webニュース | Yahoo! JAPANニュース |

## 2016年

| | | |
|---|---|---|
| 2月14日 | 新聞 | 山陽新聞 |
| 2月15日 | 新聞 | 南日本新聞 |
| 2月15日 | Webニュース | 岩手日報Web News |
| 2月17日 | Webサイト | 大川印刷6代目社長の日記 |
| 2月17日 | 新聞 | 静岡新聞 |
| 2月17日 | Webサイト | PR TIMES |
| 2月17日 | Webニュース | Yahoo! JAPANニュース |
| 2月17日 | Webニュース | 新築ハウジング |
| 2月18日 | Webサイト | PR TIMES |
| 2月18日 | Webサイト | NHKエコチャンネル |
| 2月19日 | 新聞 | 静岡新聞 |
| 2月19日 | Webサイト | LIXIL公式ＨＰ |
| 2月19日 | Webニュース | CSR新聞 |
| 2月19日 | Webサイト | スモリ工業 |
| 2月22日 | 新聞 | 日本流通新聞 |
| 2月22日 | 新聞 | 交通毎日新聞 |
| 2月22日 | Webサイト | ユニ・チャーム公式ＨＰ |
| 2月25日 | Webサイト | タキロン公式ＨＰ |
| 2月29日 | 広報誌 | 埼玉クラブ |
| 2月29日 | 新聞 | 物流ニッポン |
| 3月10日 | 広報誌 | COM岡山同友会だより |
| 常設 | Webサイト | セブン-イレブン記念財団 |
| 常設 | Webサイト | タカラトミー「未来のために」 |

2015年7月30日財経新聞

2016年2月15日南日本新聞

2015年8月17日ちがさきエコネット

2016年2月19日静岡新聞

2015年12月2日環境新聞

2015年12月8日 Work Master

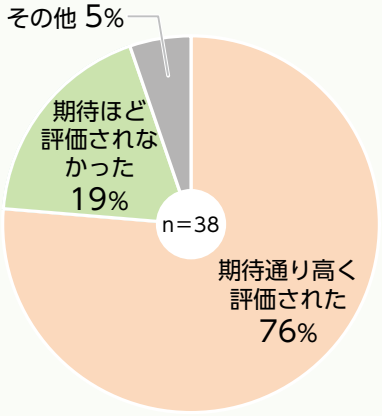
2016年2月22日交通毎日新聞

**本紙以外にも、メルマガ、Facebook、twitter、口コミ、ちらし配布等で**
**たくさんの方々に広報のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。**

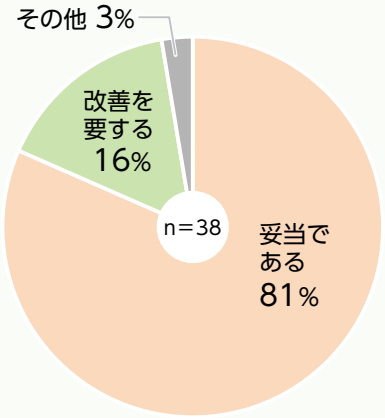
# ファイナリストの声

## 貴団体がファイナリスト賞を受賞したことへの周囲の反応は

- 改めて取組みを評価され、事業推進に役立ちました。会社の信用度も上がったと感じました。
- 全国からの約2000件の応募の中から選ばれたことは高く評価していただけました。
- 期待以上に評価されました。
- 学校からは今年も大臣賞を狙ってくださいねと応援されました。
- 団体及び活動の認知度に加え、低炭素杯自体の認知度がまだまだなのか、反応は薄かったです。(評価はされたが)
- 地元新聞社から取材が有りました。



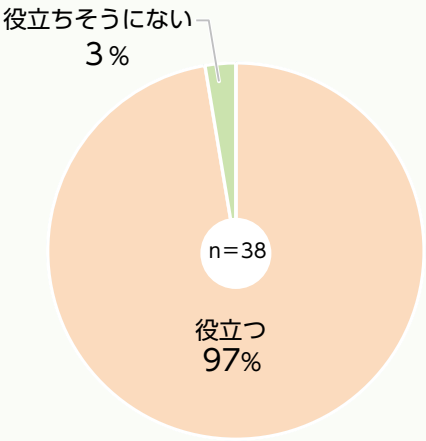

## プレゼンの演出ルールについては（時間、音楽、会場の規約など）




- 4分は短いように見えて長い適切な時間でいろいろな人の発表が聞けました。
- 4分のベルは気持ちが焦るため、ないほうが良いと感じました。
- 初めてだったのでイメージがわかなかったがよいルールだと思います。
- 4分という時間は、ちょうど良い絶妙な長さだと思いました。
- 最初にオリエンテーションがあったので、舞台確認のポイントがわかりやすかったです。
- 4分の使い方は、それぞれのグループが工夫されており、見ている方も勉強になりました。

## 今回の低炭素杯の出場は、貴団体の今後に役立ちますか

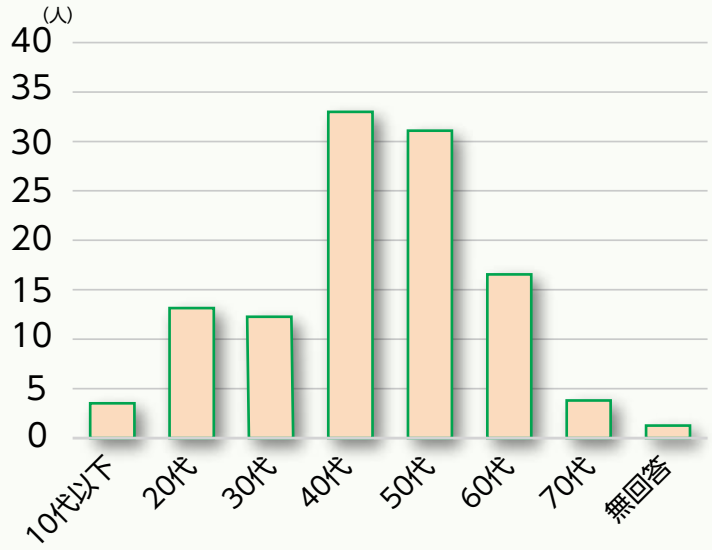
- 参考になる活動も多く、また、全国舞台へ出場できたことでアピールポイントとすることができると思います。
- 素晴らしい賞を頂けたので、自信を持って、目一杯、取り組みをアピールしていきたいです。
- 低炭素社会の実現に向けたネットワークの広がりが実感できました。このつながりを大事にして参ります。
- 熱心な他団体の活動が、今後の活動の刺激になります。
- 地域でも話題になっています。
- 経験したことのないことばかりで、生徒たちは良い勉強になったと思います。



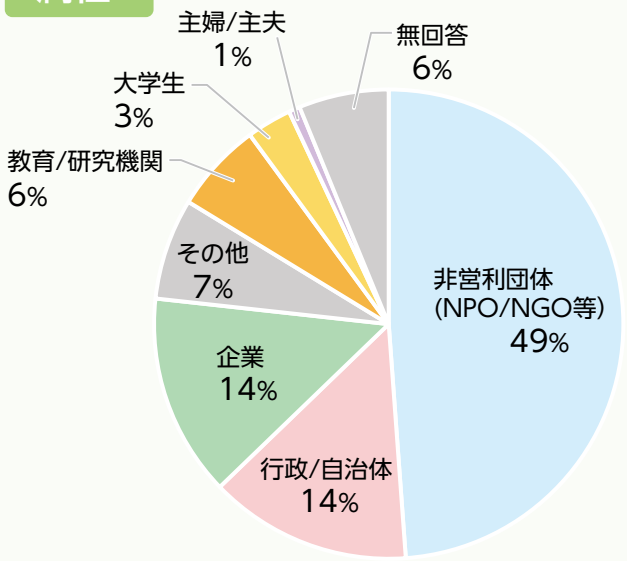

アンケートより一部抜粋

# 来場者の声

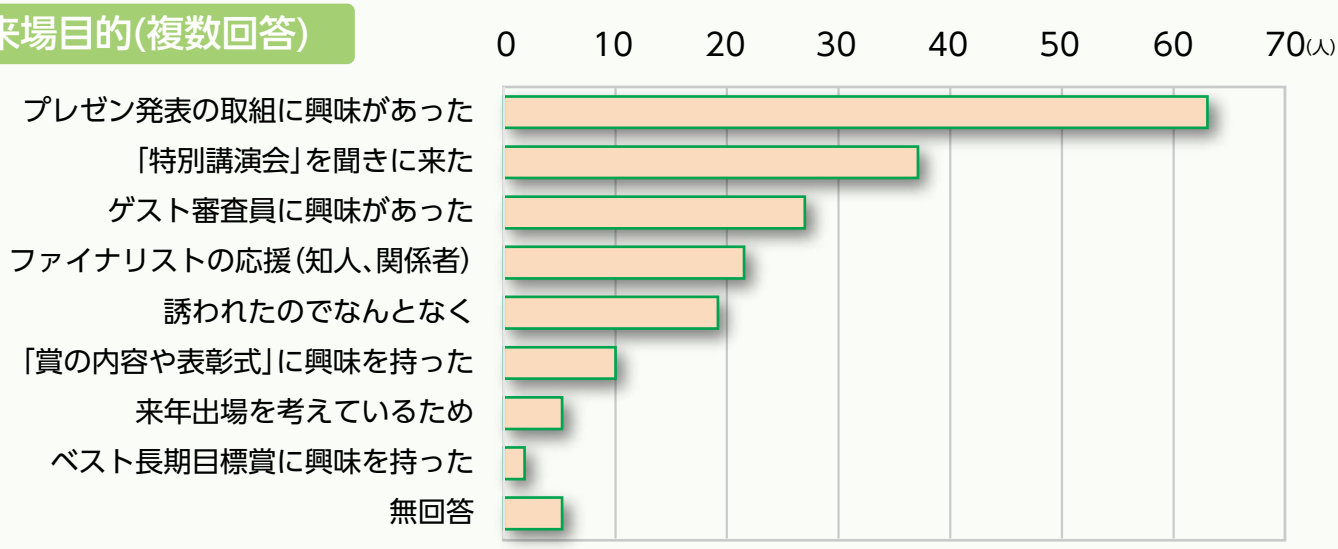
## 年代




## 属性




## 来場目的(複数回答)



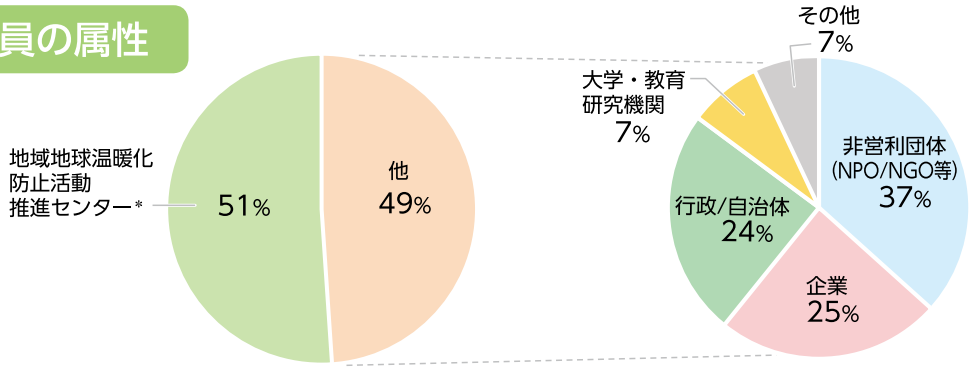

## 感　想

- プレゼン時間４分でどれだけの内容を説明できるのか疑問だったが参加者（ファイナリスト）各位が知恵をだし工夫し多くの団体・企業とも素晴らしかった。
- ２日間の開催は午前中を活用できるので良い。講演会色々学ばせていただきました。木原木材のお土産嬉しいです！
- 初めて参加させて頂きましたが企業、自治体、市民、学生ですでにこのようなＣＯ２削減の取組をされている事を知り社会全体に低炭素化へのニーズが根付いている事を強く実感する事ができました。
- 前年会場より利便性がよかったです。ただ、審査員に女性が少なく、割合を半数に近づけることをお願い致します。
- ありがとうございました。素晴らしいプレゼンでした。刺激になりました。

アンケートより一部抜粋

# ゲスト審査員の声

## ゲスト審査員の属性




*「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、各都道府県知事や政令指定都市等市長によって指定されたセンターです。
地球温暖化防止に関する啓発・広報、活動支援、相談、調査・研究、情報提供等を業務としています。

### 100人のゲスト審査員と全国の視聴者が選んだ「オーディエンス賞」！

より多くの方に全国のトップランナーの取組を見ていただき、観客の視点から低炭素な取組を評価していただこうと、温暖化対策に関わる専門家や従事者の方々100名に「ゲスト審査員」となっていただきました。

※ゲスト審査員は中学生以上

（審査方法）

- 100名のゲスト審査員が2月16日（火）13:00～17:00のファイナリスト全38団体のプレゼンテーションを全て見て審査。
- 全プレゼンテーションから、“低炭素活動”として最も感銘を受けた取組2団体へ投票。
- 当日19:00～プレゼンテーション動画をネット配信、翌日8:00迄の視聴回数に応じた審査ポイントを加算。
- 得票数上位2団体にオーディエンス賞を授与。

## 感　想

- 2つは難しい！せめて3つに！みんな素晴らしくて！
- 面白かったです。ありがとうございました。
- 昨年に比べ、バイオマス関連の発表がずいぶん充実していて、とても頼もしく感じました。
- 参加させて頂き、誠にありがとうございました。来年度は参加者になれればいいなと思いました。
- 時間の都合上困難かと思いますが、質疑応答の機会があるといいと思います。Webなどを活用してそのような仕組みはつくれないでしょうか。
- 中学校と大学の参加が少ないのが残念です。関係団体等へのさらなる周知や連携が必要だと思います。
- どのチームもプレゼンがとても上手だった。この審査員をして、たくさんの新しい知識をいただきました。また、皆さんの意気込みが素晴らしく感動しました。明日から、さらに頂いた知識を活かし、さらなる努力をしてまいります。

**オーディエンス賞得票上位5団体**

| 順位 | 団体名 | 所在地 |
|---|---|---|
| 1 | 長崎県立諫早農業高等学校 生物工学部　新エネルギー研究班 | 長崎 |
| 2 | スモリ工業 | 宮城 |
| 3 | 静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ | 静岡 |
| 4 | 米子工業高等専門学校B&C研究同好会 | 鳥取 |
| 5 | ファインモータースクール | 埼玉 |

- どのファイナリストもプレゼンが上手でおもしろい取組をされていた。もっと低炭素杯の知名度が上がるような取組をしなければならないと思います。（地域センターとしても）
- どれも素晴らしい発表でした。順位を決めるのは心が痛みます。ヒントを頂いて帰れます。これからも環境に配慮した経営取組を心掛けてまります。
- 内容が濃く、今年度は企業部門の団体が活躍していた。学生部門でも高い意識・継続された研究の報告があり感心しました。つながり、ひろげる意識のある団体がとても良かったです。外の団体と一緒に地域を活性化するのが、とても大切だと改めて思いました。プレゼンの仕方も、対話形式・劇・まっすぐなプレゼンと色々あり、面白かったです。分かりやすさの工夫が見られました。来年度もより一層の盛り上がりを期待しています。
- ファイナリストの方々、いずれもユニークで優れた取組であることはもちろん、工夫をこらしたプレゼンで非常に分かり易ったです。その活動は他地域でも活用可能なものや、一般家庭でも参考になるものもあり、その普及のためには、誰でも分かりやすく、興味を持ってもらう仕組みが不可欠です。その点、プレゼンを重視した低炭素杯は非常に優れた表彰だと思います。今日のユーチューブ放映など、メディア・SNSと連携し、低炭素杯および応募者の取組がより広く、知られるよう、その普及に引き続きご尽力頂ければと思います。

アンケートより一部抜粋

# 低炭素杯2017に向けて

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット　理事長
**長谷川　公一**

2015年12月12日ファビウス議長は「小さな木槌が大きな文書を採択する」と言う名文句で、木槌を振り下ろしました。COP21で「パリ協定」が採択された瞬間です。

気候変動対策で日本が世界に誇るべきことは3つあると思います。

第1は、1997年に採択された京都議定書です。京都議定書あってこそのパリ協定です。COP開催期間中、パリの空港には、welcomeを意味する世界10ヶ国の言葉が記されていました。日本語はわざわざ京言葉で「おいでやす」。京都に対する敬意の現れです。

第2は、京都会議をふまえて翌年、地球温暖化対策推進法のもとにつくられた、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）と地域地球温暖化防止活動推進センターという仕組みです。全国47都道府県に都道府県センターがあり、温暖化対策にとくに熱心な8つの市に市センターがあります。これらがあいまって、行政や地域協議会、地元のNPO、学校、企業、地元メディアなどと協力して、全国津々浦々をカバーする仕掛けになっています。これは日本だけの仕組みです。

第3が、この低炭素杯です。フランスのオルランド大統領は、パリ協定採択後、「低炭素経済」という新しい革命が始まったと喝采しました。パリ協定を機に、「低炭素」という言葉が世界的に認知され、大手を振るようになりました。しかし低炭素杯 Low Carbon Cup という全国的なコンペティションをすでに6回も、前身の地球温暖化防止一村一品全国大会から数えると9回も開催しているのは、わが国だけです。

日本が世界に誇る低炭素杯。「低炭素杯2017」は、あなたの出番です。

「低炭素杯2017」のファイナル・ステージでお目にかかりましょう。地域に根を下ろしたあなたの取り組みを熱く語ってください。

〈共　催〉JNCCA　一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　LIXIL

〈協　賛〉unicharm　ニトリ NITORI　ウジエスーパー　損保ジャパン日本興亜環境財団　TAKARA TOMY GROUP　KIRIN　LEMON GAS　新産グループ エコワークス株式会社　checkfield チェックフィールド株式会社　株式会社大川印刷　PrintX　CO2 低炭素化支援株式会社　KYOEI 協栄産業株式会社　滝の湯

〈協　力〉alterna　Weather Caster Network 気象キャスターネットワーク　木原木材店　横浜市民放送局　サステナビリティ日本フォーラム　環境経営学会

〈後　援〉環境省 Ministry of the Environment　文部科学省　プラチナ構想ネットワーク

〈主　催〉低炭素杯実行委員会

〈事務局〉地球温暖化防止全国ネット

低炭素杯

Low Carbon Cup 2016
2.16~2.17, 2016

編集・発行　低炭素杯事務局（地球温暖化防止全国ネット内）
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町 1-12-3　第一アマイビル 4 階
TEL：03-6273-7785　FAX：03-5280-8100　www.zenkoku-net.org/teitansohai2016/

違法伐採がされていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを原料にしたFSC® 森林認証紙、有害な VOC（揮発性有機化合物）を発生させるもととなる石油系溶剤が 0% のノン VOC インキなど、印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。

VOC FREE™

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

GREEN PRINTING JFPI

FSC www.fsc.org
ミックス 責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C009309